令和４年（２０２２年）１月３１日
子 ど も 文 教 委 員 会 資 料
教育委員会事務局子ども・教育政策課

中野区子ども読書活動推進計画（第４次）素案について

平成２９年度に策定した中野区子ども読書活動推進計画（第３次）については、「子どもたちの成長段階」を基軸に取組を構成し、その推進を図ったものである。

当該計画期間が令和３年度までであること、中野東図書館、地域開放型学校図書館の開設、学校図書館システムの導入、読書バリアフリー法の制定など、読書環境を取り巻く状況に変化があったことを踏まえ、第４次計画を策定するため、同計画素案により区民意見交換会を実施する。

１　計画の趣旨

本計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律第９条第２項に基づくもので、中野区基本計画、教育ビジョンを踏まえて、中野区における今後の子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性と主な取組を示すものである。

また、「読書に親しみ、読書の習慣を身につけることも、人生をより深く生きる力を獲得する」という観点から、中野に育つ子どもたちがより一層本を楽しみ、読書を通じて一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育むために、計画的、継続的な読書活動推進の取組が必要と考え、計画を策定するものである。

２　目標と視点

（１）計画の目標

①　より多くの子どもが、読書を楽しみ、多様なあり方・知識に触れている。
②　学校図書館が質的・量的に充実し、授業等に活用されるとともに、身近な図書館として機能している。
③　様々な人が、様々な場面や場所で、読書活動を広げる試みを進めている。

（２）計画策定の視点

①　読書の楽しさをコンセプトとした活動の推進
②　身近な図書館である学校図書館の積極的な活用と充実
③　多様な人の多様な形での読書の働きかけ
④　年齢に基づいた読書環境の形成による継続的な働きかけ
⑤　多様な子どもたちに配慮した読書環境整備の推進

３　計画期間

令和４年度から令和８年度までの５年間とする。

４　素案の内容

別紙１「中野区子ども読書活動推進計画（第４次）素案概要」及び別紙２「中野区子ども読書活動推進計画（第４次）素案」のとおり。

５　意見交換会の実施

本素案に基づき、広く区民の意見を徴するため、以下のとおり意見交換会等を実施する。

（１）関係団体等との意見交換

令和４年２月～３月上旬

（２）区民意見交換会

①　令和４年３月４日（金）　１９時　南中野区民活動センター
②　令和４年３月７日（月）　１４時　鷺宮区民活動センター
③　令和４年３月１３日（日）１４時　中央図書館

６　今後の予定

令和４年３月	区民意見交換会 教育委員会報告（意見交換会結果、計画案、パブリック・コメント）
令和４年４月	子ども文教委員会報告 （意見交換会結果、計画案、パブリック・コメント）
令和４年５月	パブリック・コメント手続
令和４年６月	教育委員会議決・報告（パブリック・コメント結果、計画） 子ども文教委員会報告（パブリック・コメント結果、計画）

別紙１

中野区子ども読書活動推進計画（第４次）素案概要

１ 計画の趣旨

この計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律第９条第２項に基づくもので、中野区基本計画、教育ビジョンを踏まえて、中野区における今後の子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性と主な取組を示すものです。

また、「読書に親しみ、読書の習慣を身につけることも、人生をより深く生きる力を獲得する」という観点から、中野に育つ子どもたちがより一層本を楽しみ、読書を通じて一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育むために、計画的、継続的な読書活動推進の取組が必要と考え、計画を策定するものです。

２ 計画の目標と策定の視点

（1） 目標

① より多くの子どもが、読書を楽しみ、多様なあり方・知識に触れている。
② 学校図書館が質的・量的に充実し、授業等に活用されるとともに、身近な図書館として機能している。
③ 様々な人が、様々な場面や場所で、読書活動を広げる試みを進めている。

（2） 策定の視点

① 「読書は楽しい」をコンセプトとした活動を推進します
② 身近な図書館である学校図書館の積極的な活用と充実をすすめます
③ 読書の働きかけを多様な人が多様な形で行います
④ 年齢に基づいた読書環境の形成による継続的な働きかけをします
⑤ 多様な子どもたちに配慮した読書環境の整備を推進していきます

（3） 計画期間

令和４年度から令和８年度までの５年間とします。

《家庭》

＊ブックスタートから始まる読み聞せ
＊プレママ・プレパパの意識づくり
＊親子で楽しむ「家読」のススメ

《地域・施設》

＊読書ボランティアの新設・拡充
＊地域・施設での「本」のPR
＊読書会・本の情報交換会の実施
＊本のミニ展示

《学校図書館》

＊図書の充実
＊図書館活用の情報共有
＊文学以外の充実
＊興味からつなげる読書活動

《区立図書館》

＊児童図書の充実
＊館外事業・地域連携の拡充
＊継続する推進態勢の構築
＊年齢別のSNS「親子ブックリスト」

３ 第3次計画の達成状況

達成指標	平成 27 年度実績	令和 3 年度目標	令和元年度実績
児童・生徒の不読率	小 3.9% 中 6.4%	小 0% 中 0%	小 3.7% 中 1.6%
児童・生徒の読書冊数/月	小 10 冊 中 4 冊	小 12 冊 中 6 冊	小 11 冊 中 4 冊
授業以外での学校図書館利用割合	小 94.0% 中 76.6%	小 100% 中 100%	小 91.1% 中 74.1%
学校、図書館、キッズ・プラザ等で本と子どもを結びつけるためボランティアの協力を得た事業数	65 事業	84 事業	107 事業
図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数	36 事業	46 事業	108 事業

《評価》

児童・生徒の不読率については、東京都の平均が小学生 3.7%、中学生が 9.5%であり、令和 3 年度目標には届いていませんが、全体として順調に推移しています。読書冊数については微増という状況です。

授業以外での学校図書館利用割合については、平成 27 年度実績より令和元年度実績は下回っており、今後も継続して向上を図る必要があると考えられます。

また、「学校、図書館、キッズ・プラザ等で本と子どもを結びつけるためボランティアの協力を得て実施している事業数」、「図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数」については、大幅に目標を上回っており、子ども読書の推進に係わる意識の向上が現れていると考えられます。

(1)学校図書館の状況

① 蔵書数

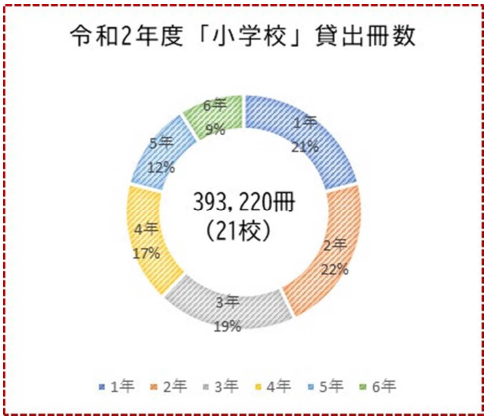
文部科学省が定めた「学校図書館図書標準」の達成率は、

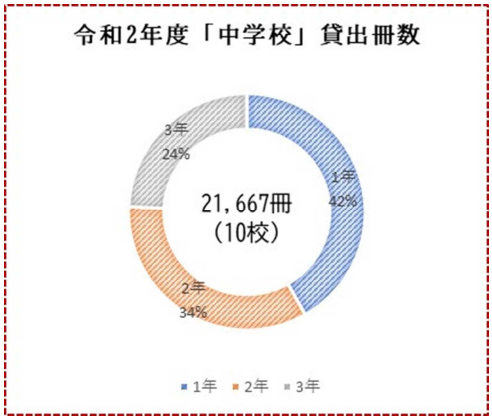
平成 18 年度　　小学校 79.3%　　中学校 42.9%

令和元年度　　小学校 77.3%　　中学校 40.0%

また、出版年で蔵書比較をすると、20 年以内が、小学校で全体の 46.6%、中学校で 56.3%となり、新しい本をより増やすことが望まれます。

② 貸出冊数（新型コロナウイルス感染症拡大による休校、開校後の対策のため参考数値）





(2)区立図書館の状況

① 児童図書貸出冊数等の比較

第１次の計画期間から現在までで、個人貸出、団体貸出ともに減少しています。

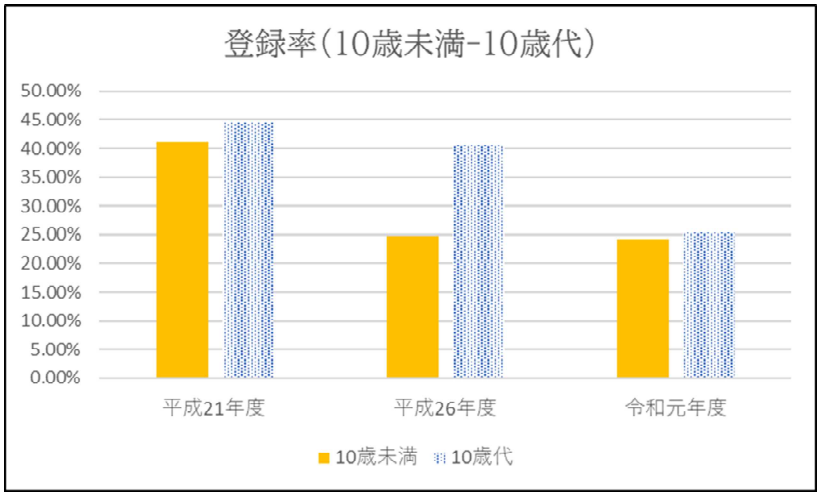
また、23 区での児童図書の貸出冊数(1 人あたり)を比較すると、23 区平均の**半分強**であり、最も貸出数が多かった区は、**3 倍以上**の貸出がありました。

《児童図書貸出冊数(個人・団体)》

	平成 21 年度 (第１次)	平成 26 年度 (第２次)	令和元年度 (第３次)
個人貸出	353,561 冊	302,199 冊	319、798 冊
団体貸出	27,240 冊	21,958 冊	23,641 冊

② 子ども(18 歳以下)の区立図書館登録率

令和元年度中野区立図書館事業報告書によると、10 歳未満の登録率 24.3%、10 歳代の登録率 25.4%となります。



4 達成指標(第４次)

達成指標	実績	令和８年度目標	備考
区立図書館児童貸出冊数	319,798 冊	410,000 冊	実績:令和元年度
学校図書館貸出冊数	392,657 冊	488,300 冊	実績:令和２年度
学校図書館図書標準達成率	小学校 77.3% 中学校 40.0%	小学校 85.0% 中学校 60.0%	実績:令和元年度
読書活動を促進する事業数(区立図書館以外)	107 事業	150 事業	実績:令和元年度
読書活動を促進する事業数(区立図書館)	40 回	167 回	実績:令和元年度

５ 主な取組

学校図書館の蔵書数などの基本的な事項の整備を着実におこなうとともに、「楽しく」、「有意義」な読書の経験をより多くの子どもに体験してもらうこと、また、各年代に応じて様々な働きかけを行うこと（アクセス、アプローチ）により、継続的に読書に親しんでもらうように構成していきます。

《乳幼児期の取組》

◇ブックスタート事業の実施	継続
◆プレママ・プレパパ絵本講座	新規
◇ブックリストの配布と個人向けブックリストの配信	拡充
◆区立図書館でのおはなし会等の充実	拡充
◇おはなし・読み聞かせボランティア育成・研修	新規
◆地域・施設・医療機関等と連携した事業実施の推進	拡充

《小学生期の取組》

◇「家読」用ブックリストの作成	新規
◆本への興味を喚起する事業・コンテストの実施	新規
◇子どもの選ぶ「読んだら良かった１００冊」	新規
◆図書館見学会、おすすめ本の紹介等学校訪問の実施	拡充
◇外国語資料の収集と提供	拡充
◆外国語による読み聞かせ等の実施	新規
◇障害のある子どものための資料収集及びサービスの充実（全年齢）	新規
◆【再掲】ブックリストの配布と個人向けブックリストの配信	拡充
◇【再掲】地域・施設・医療機関等と連携した事業実施の推進	拡充

《中学生・高校生期の取組》

◇YA 世代（ヤングアダルト世代）の読書環境の充実	拡充
◆読書のハードルを下げる取組の実施	新規
◇職場体験学習の実施	継続
◆中高生による図書館活性化プロジェクトの開始、推進	新規
◇中学校と区立図書館との共催による知的書評合戦の実施	継続
◆【再掲】本への興味を喚起する事業・コンテストの実施	新規
◇【再掲】子どもの選ぶ「読んだら良かった１００冊」	新規
◆【再掲】ブックリストの配布と個人向けブックリストの配信	拡充

別紙2
素案

中野区子ども読書活動推進計画
（第４次）

令和４年（2022年）１月
中 野 区 教 育 委 員 会

目　次

はじめに　1

概念図　2

1　計画の基本的な考え方
（１）計画の目的・性格　3
（２）第 4 次の「目標」　3
（３）計画策定の視点　3
（４）計画期間　5

２　過去の計画と図書館の現状
（１）第 3 次計画の達成状況　6
①　目標と達成指
②　指標の達成状況
③　第 3 次計画の評価
④　達成指標の比較（第 1 次～第 3 次）
（２）学校図書館の現状　8
①　蔵書数
②　貸出冊数
③　評価と課題
（３）区立図書館の現状　9
①　児童図書貸出冊数等の比較
②　子ども（18 歳以下）の区立図書館登録率
③　区立図書館で実施されるおはなし会の参加児童数
④　団体・施設等の連携
⑤　評価

３　第 4 次計画の達成指標
（１）基本的な考え方　１１
（２）目標と達成指標　１１
（３）達成指標と令和 8 年度目標値　１１

４　第 4 次計画の主な取組
《乳幼児期の取組》　１２
《小学生期の取組》　１４
《中学生・高校生期の取組》　１７

はじめに

子どもの読書活動は、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」と言われています。

これを踏まえ、中野区教育委員会では、
平成１９年２月　「中野区子ども読書活動推進計画」（第１次）
平成２４年７月　「中野区子ども読書活動推進計画」（第２次）
平成２９年５月　「中野区子ども読書活動推進計画」（第３次）
と、子どもの読書活動の推進に努めてきました。

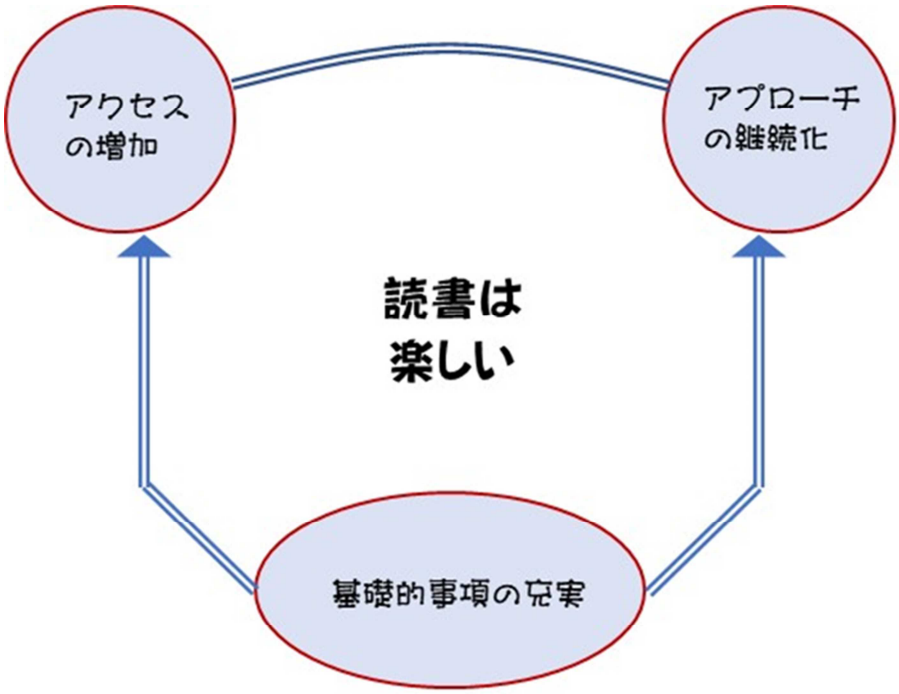
中野区子ども読書活動推進計画（以下、「計画」という。）（第３次）では、
「子どもたちの成長段階」による取組、
「家庭・地域、学校、図書館」などのそれぞれの立場からのアプローチ・連携を進めるとともに、
学校図書館への蔵書管理システムの導入、
区立図書館システムとの連携など
ICT 環境の整備を実施しました。
また、学校図書館、区立図書館融合の場としての地域開放型学校図書館を整備・運営し、特に乳幼児とその保護者、小学生・中学生に対する読書環境の整備を開始しました。

一方で、区立図書館児童図書貸出冊数の低迷、学校図書館蔵書の老朽化などの課題が明確になるとともに、GIGA スクール構想、電子機器等の普及など新たな状況にも直面しています。

第４次計画では、現状を踏まえ、令和２年１０月から開始したブックスタート事業を起点とする継続的な読書の機会へのアクセスの担保、支援体制の整備、図書館からの能動的な働きかけ・アウトリーチにより、図書館に「行く」に加え、図書館が「来る」という視点で、より多くの子どもや保護者などにアプローチしていきます。

同時に、児童図書の充実、学校図書館蔵書の更新、電子書籍の導入などの課題にも目を向け、子どもの読書活動を支える基盤の整備を推進していきます。

これらを踏まえ、中野区の子どもたちが、より楽しく、より多くの本を読めるよう、的確に計画の推進を図っていきます。



＊＊＊＊＊＊＊　家庭や地域は、本との出会いの出発点　＊＊＊＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊　学校図書館は、児童の一番身近な図書館　＊＊＊＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊　区立図書館は、本の楽しさを発信する拠点　＊＊＊＊＊＊＊

《家庭》

＊ブックスタートから始まる読み聞せ
＊プレママ・プレパパの意識づくり
＊親子で楽しむ「家読」のススメ

《地域・施設》

＊読書ボランティアの新設・拡充
＊地域・施設での「本」のPR
＊読書会・本の情報交換会の実施
＊本のミニ展示

《学校図書館》

＊図書の充実
＊図書館活用の情報共有
＊文学以外の充実
＊興味からつなげる読書活動

《区立図書館》

＊児童図書の充実
＊館外事業・地域連携の拡充
＊継続する推進態勢の構築
＊年齢別のSNS「親子ブックリスト」

1　計画の基本的な考え方

（1）計画の目的・性格

読書に親しみ、読書の習慣を身につけることも、人生をより深く生きる力を獲得するひとつとなります。

このような観点から、中野に育つ子どもたちがより一層本を楽しみ、読書を通じて一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育むために、計画的、継続的な読書活動推進の取組が必要と考え、計画を策定しています。

また、本計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律第 9 条第 2 項に基づくもので、中野区基本計画、教育ビジョンを踏まえて、中野区における今後の子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性と主な取組を示すものです。

（2）第 4 次の「目標」

① より多くの子どもが、読書を楽しみ、多様なあり方・知識に触れている。
② 学校図書館が質的・量的に充実し、授業等に活用されるとともに、身近な図書館として機能している。
③ 様々な人が、様々な場面や場所で、読書活動を広げる試みを進めている。

（3）計画策定の視点

計画の策定、主な取組の形成にあたって、国、東京都の第４次子ども読書活動推進計画を踏まえ、第３次計画を基本としつつ、以下をその視点とします。

① 「読書は楽しい」をコンセプトとした活動を推進します
② 身近な図書館である学校図書館の積極的な活用と充実をすすめます
③ 読書の働きかけを多様な人が多様な形で行います
④ 年齢に基づいた読書環境の形成による継続的な働きかけをします
⑤ 多様な子どもたちに配慮した読書環境の整備を推進します

① 「読書は楽しい」をコンセプトとした活動を推進します

「読書は楽しい」ことを多くの子どもに知ってもらい、その楽しさを経験してもらうことが大切だと考えています。

そのため、第４次の計画では、様々な場面で本との出会いを増やすこと、展示・事業等も「見たくなる、来たくなる」ように工夫をして、できるだけ多くの子どもたちに「本の楽しさ」を経験してもらうことを目標としています。

②　身近な図書館である学校図書館の積極的な活用と充実

学校図書館は、児童・生徒が日常的に触れることができる「身近な図書館」です。

学習・情報センターとして、学習活動に寄与することは重要ですが、同時に、日常的に「読書の楽しさ」に触れる読書センターでもあります。

しかしながら、全国的にも蔵書数が豊富とは言えませんし、学校司書の配置も十分とは言えません。中野区では、学校での読書指導も適切であり、学校司書（学校図書館指導員）も全校に配置され、熱意ある活動をしています。ただ、蔵書については学校図書館図書標準を満たしていない学校があるとともに、本の老朽化も看過できないレベルとなっています。

これらを踏まえ、読書の基盤である本の更新を早め、読みたい本が必ずあるという状態に近づけることが望まれます。

また、司書教諭、学校司書（学校図書館指導員）の活動が十分に共有されているとは言えず、そのための研修や仕組みを増やす必要があります。

③　読書の働きかけを多様な人が多様な形で行います

本との出会いは偶然に左右されますが、出会いの場が多ければ、それだけ「楽しい」本に出会う可能性が拡がります。

学校・施設、区立図書館でも、読書を促進する事業等を従来から実施していますが、地域やボランティアと協働して、より増やしていく必要があると考えています。

また、ネット社会の拡大、GIGA スクールによるタブレット配布、SNS による子育て情報の共有等を踏まえ、電子媒体による情報発信にも、より積極的に取り組む必要があります。

同時に、一人一人に寄り添う「本の紹介」により、個々の子どもたちの興味に基づき新たな本を薦める、今読んでいる本から新たな興味の対象を提案するなどの人的な対応も不可欠です。

④　年齢に基づいた読書環境の形成による継続的な働きかけをします

第３次計画でも、年齢・学齢に基づく取組を形成していました。年齢区分ごとに取組を最適化することは必要なことですが、一歩進めて、成長過程に沿った提案、事業形成を視野に入れることにより、より効果的に展開できます。

例えば、ブックスタート事業ですが、0 歳児の時点で、保護者に絵本を渡し、読み聞かせの重要性を訴えることは大切ですが、同時に、ブックセカンド、ブックサードと年齢に沿った事業・提案・紹介を行うことにより、効果の定着が図られると考えられます。

この継続的な働きかけについては、今後の一つのテーマであり、試行錯誤しながら進めていくべきことだと考えています。

⑤　多様な子どもたちに配慮した読書環境整備の推進

視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（令和元年法律第 49 号）、いわゆる読書バリアフリー法の施行を踏まえ、より一層、誰でも使いやすい図書館を目指す必要があります。

読書環境の整備・充実にあたっては、視覚障害以外にも、日本語を母語としない

子ども、帰国・外国人児童生徒等、図書館を利用しにくかった方たちの多様なニーズにも配慮していきます。

（４）計画期間

令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 年間とします。

2 過去の計画と図書館の現状

（1）第 3 次計画の達成状況

① 目標と達成指標

目標	達成指標
子どもが区立図書館などを利用して、読書を楽しんだり、知識を得たりしている	児童・生徒の不読率
学校では、学校図書館の活用等により、子どもの思考力、判断力、表現力が向上している	授業以外で学校図書館を利用している児童・生徒の割合
地域のボランティアが育ち、本と子どもを結びつける役割を担っている	学校、図書館、キッズ・プラザなどで本と子どもを結びつけるためにボランティアの協力を得て実施している事業数
図書館、家庭・地域、学校が、子ども読書活動の取組に向けて、連携・協力している	図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数

② 指標の達成状況

達成指標	平成 27 年度実績	令和 3 年度目標	令和元年度実績
児童・生徒の不読率	小 3.9% 中 6.4%	小 0% 中 0%	小 3.7% 中 1.6%
児童・生徒の読書冊数/月	小 10 冊 中 4 冊	小 12 冊 中 6 冊	小 11 冊 中 4 冊
授業以外での学校図書館利用割合	小 94.0% 中 76.6%	小 100% 中 100%	小 91.1% 中 74.1%
学校、図書館、キッズ・プラザ等で本と子どもを結びつけるためボランティアの協力を得て実施している事業数	65 事業	84 事業	107 事業
図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数	36 事業	46 事業	108 事業

③ 第 3 次計画の評価

児童・生徒の不読率については、東京都の平均が小学生 3.7%、中学生が 9.5%であり、令和 3 年度目標には届いていませんが、全体として順調に推移しています。読書冊数については微増という状況です。

授業以外での学校図書館利用割合については、令和 27 年度実績より令和元年度実績

は下回っており、今後も継続して向上を図る必要があると考えられます。

また、「学校、図書館、キッズ・プラザ等で本と子どもを結びつけるためボランティアの協力を得て実施している事業数」、「図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数」については、大幅に目標を上回っており、子ども読書の推進に係わる意識の向上があられていると考えられます。

④　達成指標の比較（第 1 次～第 3 次）

第 1 次計画から第 3 次計画までの関心を明確に示すものは、各計画の達成指標となります。各計画においては、ほぼ同様の目標を持ち、計画を推進してきましたが、それぞれの計画で重点が異なります。下表は、各計画の指標を同一指標を基準に並び替えたものです。

第 1 次計画	第 2 次計画	第 3 次計画
○一斉読書を実施している学校数		○児童・生徒の不読率 ○児童・生徒が 1 か月間に読んだ本の冊数 ○授業以外で学校図書館を利用している児童・生徒の割合
○区立図書館の子どもの図書貸出冊数 ○区立図書館の子ども（18 歳以下区民）の登録率 ○図書館で実施されるおはなし会の参加児童数	○区立図書館の子どもの登録率 ○図書館で実施される子どもを対象にした事業の参加者数 ○図書館見学会、体験学習の参加者数	
	○図書館と事業の連携・協力をしている施設や団体数	○図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数 ○学校、図書館、キッズ・プラザなどで本と子どもを結びつけるためにボランティアの協力を得て実施している事業数
○地域に開放されている学校図書館数	○地域に開放されている学校図書館数	

（２）学校図書館の状況

①　蔵書数

学校図書館の最低限の充実度を俯瞰する一つの目安に、文部科学省が定めた「学校図書館図書標準」があり、第１次計画の取組においても、全小中学校で達成されるよう取組が記述されています。

ちなみに、平成 18 年 9 月現在では、区立小学校は 29 校中 23 校（79.3%）、区立中学校は 14 校中 6 校（42.9%）が基準冊数を保有していました。令和元年度では、区立小学校 77.3%（東京都平均 72.5%）、区立中学校 40.0%（東京都平均 56.7%）となっており、ほぼ同一の状況であると推察されます。

なお、学校図書館蔵書の出版年による割合は別表のとおりで、新しい本による読書環境の構築に課題があることが伺われます。
※　東京都平均は、平成 28 年度「学校図書館の現状に関する調査」から。

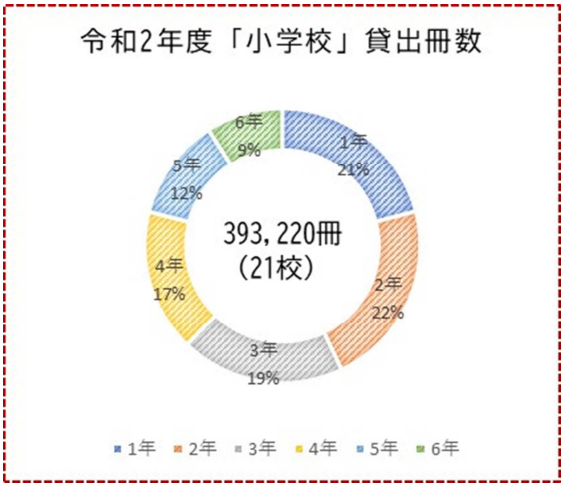
《学校図書館蔵書出版年別表》　※令和3年5月現在。学校図書館システムから抽出

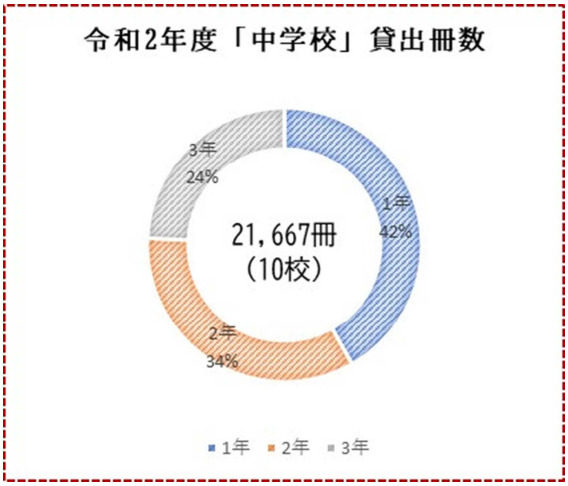
		2021～2012 10年以内	2011～2002 20年以内	2001～1992 30年以内	それ以前等
小学校	0～8門	16.3%	33.0%	32.2%	18.5%
	9門・絵本	11.7%	33.4%	25.8%	29.0%
	計	13.5%	33.1%	28.4%	24.9%
中学校	0～8門	17.4%	35.5%	31.4%	15.7%
	9門・絵本	21.1%	39.1%	20.9%	18.9%
	計	19.1%	37.2%	26.4%	17.3%

0～8門：哲学・歴史・社会科学・自然科学・芸術等　9門：文学

②　貸出冊数

貸出冊数については、令和２年度（2020 年度）に学校図書館システムを導入したため、システム的には同条件で比較ができますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、学校図書館の利用に様々な制約がありましたので、今回は参考として掲載しています。





③　評価と課題

学校図書館の利用については、小学校では中学校に比較して使われているように感じられます。これは、読書指導などが学習に組み込まれていることが一つの理由だと考えられます。

また、各学校では、朝読、学級文庫、館内展示や各校でのビブリオバトル（中学校）の実施等、教育の観点からは、十分な対応が行われており、不読率の改善など一定の成果があがっています。

同時に、学校図書館の図書購入経費については、23 区平均の約半分で、学校図書館蔵書が全部更新されるまでに、25 年以上かかります。

これらを踏まえると、まず読書活動の基礎となる「**図書の更新**」により、読書冊数（ページ数）の増加を図ることが妥当だと考えられます。

いずれにしても、すべての児童・生徒が身近にアクセスできる図書館であることを踏まえ、「関心と興味」を刺激するような試みを今以上に増やしていくことが肝要です。

（３）区立図書館の状況

①　児童図書貸出冊数等の比較

子どもの読書活動推進の結果については、その自発的な部分については、各家庭の図書購入費と区立図書館の児童図書貸出冊数に、その傾向が現れると推定されます。

以下については、中野区立図書館全館において、児童図書の貸出を個人別、団体別にまとめた表になります。

《児童図書貸出冊数（個人・団体）》

	平成 21 年度（第 1 次）	平成 26 年度（第 2 次）	令和元年度（第 3 次）
個人貸出	353,561 冊	302,199 冊	319、798 冊
団体貸出	27,240 冊	21,958 冊	23,641 冊

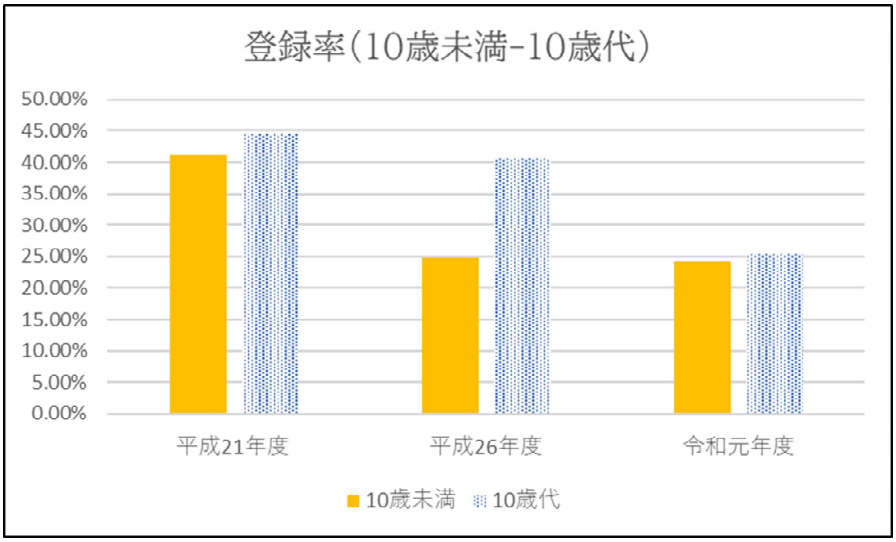
第 1 次の計画期間と現在を比較すると　、個人貸出、団体貸出ともに減少しています。

また、第 1 次計画では、児童図書貸出冊数（個人貸出）350,000 冊を目標値としており、当該冊数には、現時点でも到達していません。

さらに、23 区での児童図書の貸出冊数（1 人あたり）を比較すると、中野区の貸出冊数は、23 区平均の**半分強**であり、最も貸出数が多かった区は、中野区の **3 倍以上**の貸出がありました（令和 2 年度東京都公立図書館調査から）。

②　子ども（18 歳以下）の区立図書館登録率

中野区立図書館での 18 歳以下の方の登録率ですが、第 1 次計画では 50%を目標としていましたが、令和元年度中野区立図書館事業報告書によると、10 歳未満の登録率 24.3%、10 歳代の登録率 25.4%となります。



③　区立図書館で実施されるおはなし会の参加児童数

読み聞かせの大切さや本の楽しさを直接伝えるおはなし会等の事業は、図書館としての重要な広報活動です。参加者が増加すれば、本を読む（＝借りる）方が増加します。逆に縮小すると、図書館としての PR の場が失われます。

この事業の参加者数ですが、第 1 次計画での目標値は 10,000 人であり、令和元年度のおはなし会等児童関連事業の参加数は 7,158 人でした。

《おはなし会等参加者数》

	平成 21 年度（第 1 次）	平成 26 年度（第 2 次）	令和元年度（第 3 次）
参加者数	7,918 人	7,808 人	7,158 人

④　団体・施設等の連携

団体や地域等との連携（おはなし会等による館外事業の実施）については、第 2 次計画に「図書館と事業の連携・協力をしている施設や団体数」が出てきており、目標値が 24 か所であり、令和元年度（第 3 次目標：46 事業）の実績が、「図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数」が 108 事業となっています。

こちらについては、「か所数」と「事業数」の違いはありますが、計画を進展させたと言える数値になっています。

⑤　評価

区立図書館における児童図書の個人貸出冊数、団体貸出冊数は、微減又は現状維持であり、子どもの読書活動に関わる取組が成果を挙げたとは言えません。

また、区立図書館の個人貸出冊数（児童）については、23 区で比較した場合、大きく低迷しており、学校、各機関、ボランティア等の協力は得られているが、子どもの読書活動にその効果が現れていないようにみえます。

同時に、一般図書の個人貸出冊数について、ほぼ横ばいであることから、継続的な利用者の満足度は比較的高く、新規利用者が少ない可能性が推察されます。

3 第４次計画の達成指標

（１）基本的な考え方

読書活動が「推進」された場合、読まれる本は「増加」します。

読書活動では、その質が重要であることは当然ですが、児童図書貸出冊数が低迷する現状では、まず「図書館、書店」に子どもが行くこと、そして興味のある本を読むことを、より多くの方が行うことを優先する必要があります。同時に読書の質を高めるためのブックリスト、司書への相談、司書からの声かけ等の働きかけも望ましいと考えられます。

そのためには、読書との接点の少ない子どももいますので、可能な限り子ども関連施設・活動に図書館員やボランティア等が出向いて、楽しさの伝道に努めることにより、少しでも接点を増やすことが大切です。
また、学校図書館については、児童・生徒が興味を持てる「本」と出会えるよう図書の量的な充実を図ることが望まれます。

（２）目標と達成指標

目標	達成指標
より多くの子どもが、読書を楽しみ、多様なあり方・知識に触れている。	区立図書館児童貸出冊数 学校図書館の貸出冊数
学校図書館が質的・量的に充実し、授業等に活用されるとともに、身近な図書館として機能している。	学校図書館貸出冊数 学校図書館図書標準達成率
様々な人が、様々な場面や場所で、読書活動を広げる試みを進めている。	読書活動を促進する事業数（区立図書館） 読書活動を促進する事業数（区立図書館以外）

（３）達成指標と令和８年度目標値

達成指標	実績	令和 8 年度目標	備考
区立図書館児童貸出冊数	319,798 冊	410,000 冊	実績：令和元年度
学校図書館貸出冊数	392,657 冊	488,300 冊	実績：令和 2 年度
学校図書館図書標準達成率	小学校 77.3% 中学校 40.0%	小学校 85.0% 中学校 60.0%	実績：令和元年度
読書活動を促進する事業数（区立図書館以外）	107 事業	150 事業	実績：令和元年度
読書活動を促進する事業数（区立図書館）	40 回	167 回	実績：令和元年度

4 第４次計画の主な取組

「より多くの子どもが、読書を楽しみ、多様なあり方・知識に触れている」状態を拡大・継続することが、本計画の目標であり、そのため、身近な図書館である「学校図書館」の充実、区立図書館をはじめとした多くの人による働きかけが必要となります。

各種事業の基本的な考え方については、学校図書館の蔵書数などの基礎的な事項の整備とともに、「楽しく」、「有意義」な読書の経験をより多くの子どもに体験してもらうこと、また、各年代に応じて様々な働きかけを行うこと（アクセス、アプローチ）により、継続的に読書に親しんでもらうように構成していきます。

なお、事業の構成については、継続的な読書活動の推進の意味を込めて、年代別として構成します。

《乳幼児期の取組》

ブックスタート事業の実施			継続
	0歳児（2400人程度）を対象に、読み聞かせの必要性、重要性を理解してもらうため、ブックスタートパック（絵本２冊、パンフレット１冊、バッグ1つ）の配布を区立図書館で実施します。		
	令和２年度実績	502人（10月～3月）	
	令和４年度目標	1440人/年（0歳児の約60%）	
	令和８年度目標	1929人/年（0歳児の約80%）	
プレママ・プレパパ絵本講座			新規
	はじめてパパ、ママになる「プレママ・プレパパ」を対象として、出産後の読み聞かせ等の参考となるよう「絵本講座」を実施します。		
	令和２年度実績	実績無し	
	令和４年度目標	プレママ・プレパパ絵本講座8回	
	令和８年度目標	プレママ・プレパパ絵本講座20回	

ブックリストの配布と個人向けブックリストの配信			拡充
	乳児・幼児・小学生・YA 等への「おすすめ本」のリストを作成・更新・配布をします。また、SNS（Line 等）を活用して、月齢・年齢（0 歳児～15 歳）や興味に応じた個人向けのブックリストの配信を行います。		
	令和 2 年度実績	乳幼児 7708 部　小学生 10263 部　中学生 3380 部	
	令和 4 年度目標	乳児：母子手帳交付時・3～4 ヶ月検診時に配布 幼児：入園児に配布　小学生・中学生：入学時配布 SNS による配信の仕組み検討、データベース作成開始	
	令和 8 年度目標	配信（令和 7 年配信開始予定）	

区立図書館でのおはなし会等の充実			拡充
	ブックスタート事業で来館した利用者が、継続して来館するよう「小さい子向けおはなし会」等をより充実します。 また、参加回数に応じた表彰等を実施しインセンティブの確保に努めます。		
	令和 2 年度実績	85回/年	
	令和 4 年度目標	180 回/年	
	令和 8 年度目標	210 回/年	

おはなし・読み聞かせボランティア育成・研修			新規
	「地域・施設等と連携した事業実施の推進」などと連携し、新規のボランティアを育成、募集していきます。 また、地域等と連携したおはなし会等の事業をボランティアの活動の場とします。		
	令和 2 年度実績	実績無し	
	令和 4 年度目標	登録ボランティア 35 名 初心者講座 2 回　ステップアップ講座 1 回	
	令和 8 年度目標	登録ボランティア 100 名 初心者講座 2 回　ステップアップ講座 2 回 わらべ歌など上級講座 2 回	

地域・施設・医療機関等と連携した事業実施の推進			拡充
	保育園・幼稚園・子育てひろば、児童館・キッズプラザ、地域団体等と連携した出張おはなし会・読み聞かせ講座などの充実・拡大、乳幼児の検診時や医療機関等での本の紹介・展示など様々な場面で読書の楽しさや大切さを伝える機会を増やします。		
	令和 2 年度実績	40 回	
	令和 4 年度目標	60 回/年	
	令和 8 年度目標	167 回/年	

《小学生期の取組》

「家読」用ブックリストの作成			新規
	家読（家族ふれあい読書）の提案として、家読用ブックリストをホームページ等で PR していきます。		
	令和２年度実績	実績無し	
	令和４年度目標	年１回	
	令和８年度目標	年４回	
本への興味を喚起する事業・コンテストの実施			新規
	他の関心から本への興味という趣旨のもと「プログラミング講座」、感想画、本の帯コンテストなど、各種の事業・コンテンツを行います。		
	令和２年度実績	実績無し	
	令和４年度目標	5講座・コンテスト	
	令和８年度目標	15講座・コンテスト	
子どもの選ぶ「読んだら良かった100冊」			新規
	小学校中学年～中学生を対象に、子どもたちが「ほしい」、「よかった」本（電子媒体含む）を募集するとともに、児童図書の購入の指標の一つとします。 また、それを活用し、ブックマラソンを実施します。		
	令和２年度実績	実績無し	
	令和４年度目標	事業の枠組み、PR 方法等検討	
	令和８年度目標	継続（令和５年度開始）	
図書館見学会、おすすめ本の紹介等学校訪問の実施			拡充
	現在実施している図書館見学会、ブックトーク等をより充実していきます。		
	令和元年度実績	図書館見学会 12 校　ブックトーク８校	
	令和４年度目標	図書館見学会 14 校　ブックトーク９校	
	令和８年度目標	図書館見学会全校　　ブックトーク全校	

外国語資料の収集と提供			拡充
	多言語の資料を収集し外国の文化を知るための資料収集を実施します。		
	令和2年度実績	中央館 72 冊　地域館 16 冊	
	令和４年度目標	中央館 100 冊　地域館 200 冊	
	令和８年度目標	中央館 300 冊　地域館 600冊	
外国語による読み聞かせ等の実施			新規
	ボランティア、関係団体と協働し、多言語での読み聞かせやおはなし会を実施します。		
	令和2年度実績	実績無し	
	令和４年度目標	1 回/年	
	令和８年度目標	12 回/年	
障害のある子どものための資料収集及びサービスの充実（全年齢）			新規
	関連団体と連携し、さまざまな形態の資料を収集、提供します。また、バリアフリー絵本展示などで PR を行うとともに、布絵本収集・貸出・作成講習会なども実施していきます。 なお、デイジー図書再生機（音声読み上げ機）などの台数の増加も図ります。		
	令和2年度実績	実績無し	
	令和４年度目標	展示１回　講習会１回	
	令和８年度目標	展示４回　講習会４回	
【再掲】ブックリストの配布と個人向けブックリストの配信			拡充
	乳児・幼児・小学生・YA 等への「おすすめ本」のリストを作成・更新・配布をします。また、SNS（Line 等）を活用して、月齢・年齢（0 歳児～15 歳）や興味に応じた個人向けのブックリストの配信を行います。		
	令和２年度実績	乳幼児 7708 部　小学生 10263 部　中学生 3380 部	
	令和４年度目標	乳児：母子手帳交付時・3～4 ヶ月検診時に配布 幼児：入園児に配布　小学生・中学生：入学時配布 SNS による配信の仕組み検討、データベース作成開始	
	令和８年度目標	配信（令和７年配信開始予定）	

【再掲】地域・施設・医療機関等と連携した事業実施の推進			拡充
	保育園・幼稚園・子育てひろば、児童館・キッズプラザ、地域団体等と連携した出張おはなし会・読み聞かせ講座などの充実・拡大、乳幼児の検診時や医療機関等での本の紹介・展示など様々な場面で読書の楽しさや大切さを伝える機会を増やします。		
		令和２年度実績	40 回
		令和４年度目標	60 回/年
		令和８年度目標	167 回/年

《中学生・高校生期の取組》

YA 世代(ヤングアダルト世代)の読書環境の充実			拡充
	YA 世代(概ね 13 歳～19 歳)の図書館利用の促進を図るため、YA に向けた図書の充実・展示・ブックリスト配信(SNS)等の多様な事業の展開を図り、読書冊数の向上とともに、「まず来館する」環境作りの充実を図ります。		
	令和 2 年度実績	YA 蔵書数 14,473 冊 YA 貸出冊数 3,177 冊 YA 世代への貸出冊数 29,568 冊	
	令和 4 年度目標	YA 世代への貸出冊数 32,500 冊	
	令和 8 年度目標	YA 世代への貸出冊数 40,000 冊	
読書のハードルを下げる取組の実施			新規
	ブックマラソン(自由・規定)を開催します。 また、読書の習慣を身に着けるための取組、読みやすい資料の収集、ブックリスト作成・更新を進めていきます。 ※ ブックマラソン:指定する読書リスト等から本を読み、その冊数に応じて表彰等を行う事業		
	令和 2 年度実績	実績無し	
	令和 4 年度目標	ブックマラソン 2 回/年	
	令和 8 年度目標	ブックマラソン通年	
職場体験学習の実施			継続
	職場体験学習として中学生を受け入れている体験学習の周知用パンフレットを作成し、各中学校へ配布するなど、参加者数を増やす取り組みを行います。		
	令和 2 年度実績	35 回 83 名	
	令和 4 年度目標	周知用パンフレット作成	
	令和 8 年度目標	50 回 150 名	
中高生による図書館活性化プロジェクトの開始、推進			新規
	中高生による図書館活性化のためのプロジェクトを立ち上げ、利用促進のための企画を策定、実施します。		
	令和 2 年度実績	実績無し	
	令和 4 年度目標	プロジェクト策定　PR 参加者募集準備	
	令和 8 年度目標	中高生による企画実施（令和 6 年度から順次）	

中学校と区立図書館との共催による知的書評合戦の実施			継続
	中学校と共催し、各自が本の感想等を発表し、参加者が評価する知的書評合戦を継続実施します。		
	令和２年度実績	全体で年１回（各中学校では別途実施）	
	令和４年度目標	継続	
	令和８年度目標	継続	
【再掲】本への興味を喚起する事業・コンテストの実施			新規
	他の関心から本への興味という趣旨のもと「プログラミング講座」、感想画、本の帯コンテストなど、各種の事業・コンテンツを行います。		
	令和２年度実績	実績無し	
	令和４年度目標	5講座・コンテスト	
	令和８年度目標	15講座・コンテスト	
【再掲】子どもの選ぶ「読んだら良かった100冊」			新規
	小学校中学年～中学生を対象に、子どもたちが「ほしい」、「よかった」本（電子媒体含む）を募集するとともに、児童図書の購入の指標の一つとします。 また、それを活用し、ブックマラソンを実施します。		
	令和２年度実績	実績無し	
	令和４年度目標	事業の枠組み、PR 方法等検討	
	令和８年度目標	継続（令和５年度開始）	
【再掲】ブックリストの配布と個人向けブックリストの配信			拡充
	乳児・幼児・小学生・YA 等への「おすすめ本」のリストを作成・更新・配布をします。また、SNS（Line 等）を活用して、月齢・年齢（0 歳児～15 歳）や興味に応じた個人向けのブックリストの配信を行います。		
	令和２年度実績	乳幼児 7708 部　小学生 10263 部　中学生 3380 部	
	令和４年度目標	乳児：母子手帳交付時・3～4 ヶ月検診時に配布 幼児：入園児に配布　小学生・中学生：入学時配布 SNS による配信の仕組み検討、データベース作成開始	
	令和８年度目標	配信（令和７年配信開始予定）	